

## エッグドロップコンテスト

『壊れやすい物体を防御ために、衝撃吸収・構造設計・落下制御・材料工学を駆使する』  
この言葉の並びから想像するに大変高度な学問であろうと想像できます。その高度な学問を本校理科室で取り組んでいると。その方法は、限られた資材“模造紙半分ほどの紙、ハサミ、ノリ、セロハ



ンテープ”を用いて、壊れやすい“生卵”を守るための装置を構築します。装置をまとった生卵を3階渡り廊下から自由落下（重力の働きだけによって落下する現象・投げおろさない!）させ、地面に衝突させて、割れないよう競い合う。これが“エッグドロップコンテスト”です。

空気抵抗を存分に受けるための傘を構築するグループ・衝撃を吸収するために生卵に覆いを巻き付けるグループ・ラーメン構造のように柱と梁を組み立て、中心に卵を配しショックを吸収しようと考えるグループ。形が崩れにくく安定性がある三角形で囲まれた立体、即ちトラス構造を利用したグループ。考えられた装置は、観ている私に衝撃を与えました。しかし、その衝撃を吸収する装置を私の中に構築しておりません。私の負けです。ひび割れる班、完全に割れてしまう班、生卵を原型のまま防御した班、装置から取り外し確認するたびに歓声が上がりました。

1年生は、社会、総合的な学習の時間、スキー移動教室と教科横断的に雪国を学んだことをまとめ、プレゼンテーションを行いました。敢えて、パソコンは使わず、模造紙に書き込まれた内容での発表です。クラスごとにプレゼンテーションを行い、優秀賞に輝いた班が、全体の前で発表しました。スピーチを構築するにあたり、聴衆に衝撃を与えられたでしょうか。食について語った班は、南国沖縄と雪国北海道を比較





しました。スポーツ新聞仕立てにした模造紙は雪国のスポーツについて言及。雪国の生活について調べた班は、屋根の角度について触れ、雪が屋根から落ちやすくするよう角度が付いていることを突き止めます。この班は調べ学習にとどまらず、スキー教室で菅平の建物を観察し、屋根の角度が急であることを確認してきたといいます。評価に値する学習であり発表です。衝撃を受けました。内容ばかりではなく、声のトーンを変える、身振り手振りを交える、表情を変えるなど視聴覚室は、ちょっとした小劇場と化しました。

9日、生徒会本部役員は明星大学の教員養成課程の生徒さんたちと意見交流会をもちました。

①清瀬中学校生徒会の取り組みの紹介

②現状、生徒会として困っていること・悩んでいることの相談



大学生の皆さんには、生徒会の取り組みについて評価していただき、さらにその企画が発展するよう助言をしていただきました。生徒会として、悩んでいることも多々あります。生徒の皆さんを盛り上げるために、悩む生徒会役員は生卵のように壊れやすい。ですから、生徒の皆さんで衝撃を吸収するよう手を取り合って協力という防御装置を構築しなければなりません。

相談内容は、企画する上で何に配慮すればよいか・生徒の要望に応えるにはどうすればよいか・挨拶運動の活性化は？などなど。大学生と意見交換しヒントをいただいております。特に印象に残った大学生の言葉は、



『生徒会企画に目的をもたせ、その目的を全校生徒に伝える。目的の共有』

『役員と全校生徒の信頼関係を構築していき、徐々に活動に「自由」度をもたせられるように』

信頼を構築した上での自由度が新たな創造と発展をもたらすようです。

それは 自由楽化 です。

